

技術科

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・出身小学校での指導により、タイピングの速さなど、コンピュータ操作の技能に大きな差がみられる。 ・道具の形がどのような仕組みを実現し、その役割を果たすようになっているのか、など、話し合いながら事実に向ける力がある。 ・学んだ内容と、現実の生活とを結びつけて考えることが得意な生徒も多いが、難しい生徒もいる。 ・ほとんどの生徒が積極的に挙手・発言できるが、苦手な生徒も各クラスに一定数存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作技能の低い生徒に対し、授業内外で ICT 機器にふれる機会を増やし、コンピュータの操作に慣れさせていく。 ・道具などをすべて紹介しきることなく、考えさせる部分を残すような授業展開とする。 ・具体的に、該当するような製品や場面について探してみるようにアドバイスする。 ・提出物等で観点が C となり得る生徒については、個別指導を行うとともに、ICT 機器を活用したグループ学習等も取り入れ、相談しやすい環境を作るよう工夫する。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな経験をしてきているが、生活と授業の内容との関わりを感じ取ることが難しい。 ・授業への取り組みが積極的でよく理解しているが、それを言葉にすることが難しい。 ・これまでの経験から失敗を恐れており、手を動かすことに不安を感じている。 ・作業自体におくれをとってしまい、焦りをみせる生徒がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術が生活と密接に関わっていることを実感させるため、より多くの具体例を挙げていく。 ・教師が様々な表現をしたり、発表の機会を設けたりすることで、生徒が理解していることを表現する力をつけていく。 ・失敗の原因を確認して次に生かす取り組みにつなげ、よりよい結果が得られるようフォローする。 ・今後の ICT 環境整備状況に応じ、様々な作業手順の映像などを自分のタイミングで確認できるような教材提示を行う。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培実習と授業の内容がリンクできておらず、どこか他人事のような認識をもっている様子がある。 ・実験・実習や議論には総じて意欲的に取り組み、仲間と協力する姿勢もよくみられたが、まとめについて理解が十分ではなく、テストの結果につなげられていない生徒がみられた。 ・実験における指示や注意点が伝わりきらない生徒がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培に取り組む際、肥料をやるタイミングを生徒自身に考えさせるなど、実際の労働現場に近い作業にふれることで、自分の生活に生かす意識をもたせていく。 ・栽培を行うだけでなく、携わる人々の苦労や、食糧生産技術の発展についての視点を多く持つことを、単元の初めに明確に提示していく。 ・ICT 機器を活用し、指示の内容を視覚的に提示することにより、スムーズかつ確実な指示の伝達を行う。